

## 道路防災対策等に関する技術検討会

### 令和5年度 現地確認 議事録

日 時：令和5年9月20日（水）13:00～16:00

場 所：岸和田土木事務所

現 地：①岸和田港塔原線（岸和田市相川）

②岸和田港塔原線（岸和田市河合～土生滝）

出席委員：河井委員、小山委員、吉田委員（五十音順）

（事務局）道路環境課 中田、川崎

議事次第：異常気象時通行規制区間の緩和にかかる現地確認について

#### 1) 異常気象時通行規制区間の現地確認を実施

（事務局）現地確認前に防災点検結果や経験雨量および対策工について説明し、現地確認で問題なければ、下記の基準に緩和したい。

①岸和田港塔原線（岸和田市相川） 連続雨量 130mm→190mm（60mm緩和）

②岸和田港塔原線（岸和田市河合～土生滝） 連続雨量 130mm→190mm（60mm緩和）

#### 2) 現地確認後、委員の意見を踏まえた対応内容を整理

##### ①岸和田港塔原線（岸和田市相川）

（吉田委員）対策工事に特に気になる点が無かったので、過去の連続雨量からみても、60mm緩和で問題なし。落石防護網対策部分で、網に落石がたまった場合は除去するなど定期的な対応と点検が望ましい。

（小山委員）要対策箇所についても対策済ということで、60mm緩和で問題なし。

側溝の土砂堆積状況についても経過観察すること。

大きな転石・浮石は次の点検のときにもよく経過観察しておくこと。

護岸についても、一定の条件を見れば道路防災点検にて点検しているということで、引き続き経過観察に努めてください。

吹付工にクラックが見受けられた。今後深くなったり、増えたりしているか注意し経過観察を行ってください。

（河井委員）護岸は、平成22年点検時対策不要、平成27年点検時で要対策箇所に上がっている。引き続き経過観察をお願いします。

##### ②岸和田港塔原線（岸和田市河合～土生滝）

（吉田委員）被災時の状況及び、その要因が明確でない、山からの流水によるものか河川の増水による洗堀かといった点が気になる。201mmを経験しているため、190mmまで緩和して

も問題ないと思うが、路肩崩壊の原因が不明な点が悩ましい。180mm、170mmでもいいのでは。経過観察の手法について、アプローチが困難な現場であればドローンを活用するとよい。

(小山委員) 平成29年のとき、いつ、どこで、どれくらいの雨量のときに災害が起こったか、可能な範囲で調べてほしい。201mmを経験しているため、190mmまで緩和しても問題ないと思う。

(河井委員) 災害復旧箇所も水が回っているか普段から気にかけておくこと。また、災害が発生した箇所は前後を含めて点検の対象とすること。  
190mmまで緩和しても問題ないと思うが、次の緩和は慎重に行うこと。

(事務局) 委員からご指摘のあったように、落石防止網に石が溜まっているかを確認するなど、経過観察は継続していく。災害復旧箇所に水が回っているかを確認するなど、経過観察を継続していく。災害に関し過去資料を整理する。現地を確認していただき、過去の経験雨量を踏まえて190mmまで緩和しても問題はないと意見をいただいたので、提案通りの緩和に向けた手続きを進めていく。